

新・向山洋一 実物資料集

第2巻

「授業論・上達論」

授業で子どもをひきつける教師の秘密

サンプル版

ver.20210913

※本ファイルはサンプル版です、実際刊行されるものと内容・仕様等が異なる場合がありますことを予めご了承ください。

※図版等の解像度は、インターネットを通した画面表示に最適化した低解像度のものです。
実際の印刷物は高解像度の図版を使用して印刷いたします。

新・向山洋一実物資料集 第2巻 目次

はじめに 向山洋一	1	2. 向山洋一が着想した授業の根本思想「授業読本 Part2」	61
解 説 授業の奥深さ ～「出口論争」から「授業技量検定創設」まで～ 谷 和樹	8	(1) すぐれた教師の力 授業論の覚書	
1. 向山洋一が着想した授業の根本思想「授業読本 Part1」	9	①技術の昇華	62
(1) 俳句一句で授業するのがプロの授業 1981.7.17	11	②石川正三郎	63
解説コラム1 優れた授業とは何か ～なぜ新卒教師は授業ができないのか～	13	解説コラム10 技術の昇華・教育観はどのように形成されていくのか	66
(2) 集団思考とは何か 集団思考における教師の役割	14	(2) 授業論 2 追究する	67
(3) 集団思考の向山の定義	16	(3) 授業論 5 確認する	72
(4) 集団思考によって子どもに何を得させるのか	18	(4) 授業論 6 教え落とす	74
(5) 集団思考における異なる意見の意義	20	(5) 授業論 7 組み立てる	75
(6) 具体的表現である技術	22	(6) 授業論 8 論争させる	76
(7) 多様な考え・意見を生み出す条件	24	(7) 授業論 9 ほり下げる（発展させる）	78
解説コラム2 「主体的・対話的で深い学び」をこの当時から研究していた	26	(8) 授業論 10 学び教える	79
(8) 向山にとっての研究とは、実践とは 1981.7.19	27	(9) 授業論 11 描く	79
解説コラム3 教師という仕事を「技術職」に押し上げる	29	解説コラム11 怒涛 ^{どとう} の授業論メモから何を読み取るか	80
(9) すぐれた授業をするための条件	30	(10) 実践録「教育読本」構想	81
(10) 授業にあたってどのようなことをするか 思いつきのまま 1981.7.19／1984 追記	31	(11) 「気がついていない」ことが分かるとき 1982.1.12	83
解説コラム4 『授業の腕を上げる法則』前夜がここにある	33	(12) 授業のポイント 覚書 1985.8	84
(11) 技術 奥山紅樹 抜粋	34	解説コラム12 教師のために本当に必要な情報を示す	86
(12) すぐれた教育的行為を支えるもの 1981.7.22	36	3. 子どもをひきつけ、子どもが熱中する「向山洋一の授業理論の原点」	87
解説コラム5 向山洋一の教育観形成のヒント	38	(1) 教師論 メモ	88
(13) すぐれた教師の教える行為 1981.7.22	41	(2) 教師の思想	92
(14) 子供に学ぶ 1981.7.24	42	(3) 教師の思春期	93
解説コラム6 「すぐれた授業への疑い」書籍プロットメモでの思考	44	(4) 教師の成長	94
(15) 「すぐれた実践」と「いかなる実践」との差 1981.7.28	45	(5) 子どもを育てる基本視点	95
解説コラム7 現代でも当てはまる人がいかに多いことか	47	(6) 教師は子どもの力を引き出す	96
(16) 教師は何も教えない、教師は教えすぎる 1981.7.28	48	解説コラム13 教師としての「教師論」を突き詰める	98
解説コラム8 主体性と教育技術 ^{あわ} を併せ持つことで教師たり得る	53	(7) 授業理論の着想 ノート表紙	99
(17) 雑誌連載の形式 メモ 1981.8.27	54	(8) 教育技術論の為の覚書 1978.8.24～26	
(18) 小林篤氏への反論 1981.9.3	55	①総論	100
(19) 「書く」 1982.9.2	58	②教科指導	102
(20) 学級経営とは？ 覚書	59	③教科外指導	104
解説コラム9 たかがメモではない、巨大な提案への基礎的な積み重ね	60	④その他	104

解説コラム 14 教育技術論の構築のため「全体像」をまとめる	106
(9) ㊟理論の映像化 ～新たな教育理論の構築～	
①教材開発のブリッジ理論	107
②発問の連結理論	108
③授業のロードショー理論	109
④新卒心得としてのショッピングバッグ理論	110
解説コラム 15 授業「理論の映像化」によって何を伝えようとしたのか	111
(10) 授業の理論メモ① 1986.7.26	112
(11) 授業の理論メモ② 1990.7.19	114
(12) 授業の理論メモ③ 1993.2.10	115
(13) 授業論の枠組 1993.10.5	116
(14) 授業論の枠組 1994.1.21 追記	118
(15) 授業理論のメモ 2001.9.30	120
解説コラム 16 ぶれない向山氏の授業理論	122
(16) 楽しい授業のいくつかのエピソード	124
解説コラム 17 「知的な授業」を追い求める	125
(17) 授業の行為と意味 評価シート	
①構想	126
②評価シート	128
解説コラム 18 「授業の行為と意味」を突き詰めて考える	129
(18) 勉強ができるクラスとは	130
(19) 子どもは、どんな時にうごくか	132
(20) どうして子どもは発言しないのか	134
解説コラム 19 過去から現代への強烈な問いかけ	135
4. 向山洋一の研究の方法と理論	137
(1) 脳科学と学習	138
(2) 学習と理論	140
(3) 学習モデルの習得 2001	142
解説コラム 20 教育に「科学」の視点を最先端で持ち込んだ	144
(4) 研究メモ	145
(5) 社会科 教師へのアンケートメモ	148
(6) 楽しい社会科の授業を創れるか	150

解説コラム 21 本物の「授業研究」を目指して	152
(7) 校内研究 子どもが活動する授業を目指して	154
(8) 研究紀要原稿 執筆のポイント	156
(9) 60年度 教育課程についての意見・提案 記入の手引き	160
(10) 研究報告のあり方 1982.3.12	162
解説コラム 22 実践に立ち返る「校内研究」を構築する	164
5. 向山が選び抜いた 教師に必要な上達論・思考法	165
(1) 教師に必要な上達論 ～伸びる人の条件～	166
(2) 教師に必要な上達論 ～教師の成長サイクル～	168
(3) 教師に必要な上達論 ～革命・創業の英傑に必須の三条件～	169
解説コラム 23 教師に必要な上達論は成功法則のひとつである	171
(4) 教師に必要な思考法	
①生活の貧しさと心の貧しさ 大塚久雄	172
②歴史における科学 バナール	174
③科学理論はいかにして生まれるか N.R. ハンソン	176
④なんのための教師 ジョルジュ・ギュスドルフ	178
⑤日本人にはなぜ強気が必要か 坂本二郎	180
⑥将棋マガジン 1981年3月号 米長邦雄八段	181
⑦創造する技術	182
解説コラム 24 読書から自身の教育観を構成するプロセス	183
(5) 黒帯六条件	
①プロ教師への上達論（黒帯六条件への道）	184
②「あのね」学年通信 1983.10.27	186
③黒帯六条件とは	188
④黒帯六条件 その一 すぐれた技術・方法を100学べ	189
⑤黒帯六条件 その二 すぐれた授業の追試を100せよ	192
⑥黒帯六条件 その三 応募論文を100本書け	195
⑦黒帯六条件 その四 自主的な研究会に100回参加せよ	196
⑧黒帯六条件 その五 研究授業を100回せよ	197
⑨黒帯六条件 その六 身銭を切って学べ	198

6. 授業技量を飛躍的に向上させる TOSS 授業技量検定の創出	201
(1) 教師の条件	202
(2) 世界初 向山がつけた TOSS 授業技量検定 A 表 実際の採点	204
解説コラム 25 TOSS 授業技量検定の誕生	208
(3) B 表検定 向山がつけた採点表 2003.3.20	210
解説コラム 26 A 表以下の項目の誕生	212
(4) TOSS 授業技量検定 全体構想	214
(5) TOSS 授業技量検定 認定証 構想	216
解説コラム 27 TOSS 授業技量検定 ～全体構造の確定へ～	218
(6) 授業とは 2004.1.6	220
(7) 有段のための教科内容 2004.1.5	221
(8) 授業技量検定 点数と段位イメージ図	222
(9) 検定審査のあり方の構想 2004.1.8	223
解説コラム 28 TOSS 授業技量検定の創出により何を目指したのか	224
(10) TOSS 授業技量検定 採点項目の修正	
① B 表の修正	226
② A 表の修正	227
③ E 表、F 表の修正	228
④ C 表の修正	229
⑤ TOSS 授業技量検定 一覧表	230
解説コラム 29 TOSS 授業技量検定の項目・点数修正に見る向山氏の意図	232
(11) 段級位の目安の修正 2004.8.15	233
(12) 段級位の目安の修正 2004.11.27	235
解説コラム 30 段級位の目安は TOSS 授業技量検定のもうひとつの重要ファクター	236
(13) 教師の基本動作 2005.6.28	237
(14) TOSS 授業技量検定で問われる教師の技量一覧	238
(15) 向山は技の身体技能化をどこで身につけたか 2005.6.30	239
(16) 技能技量の基本	240
解説コラム 31 向山氏の壮絶体験から生み出された究極の上達論	241
(17) 技能・技術が向上するシステムとは 2005.7.2	242
(18) 向山洋一教え方教室 講演メモ ～なぜ TOSS 授業技量検定なのか～ 2006.9.17 ...	246
(19) 向山メモ	248
(20) TOSS 授業技量検定 受験頻度の目安	249
解説コラム 32 TOSS 授業技量検定の要点を講演記録から読み取る	250

あとがき 教師の上達論が日本の未来を拓く 小嶋悠紀	251
---------------------------------	-----

授業の奥深さ ～「出口論争」から「授業技量検定創設」まで～

谷 和樹

向山氏の『授業読本ノート』の一部は、セミナーで紹介されたことがある。例えば1981.7.18に氏が書いた「外連^{けれん}」のページである（20ページ）。

1981年というのは、向山氏が「教育技術の法則化運動」を立ち上げる前だ。いわゆる「出口論争」に向山氏が『『出口』論争―教室からの発言』（『現代教育科学』1980年2月号（明治図書））を投稿し、衝撃的なデビューを果たした直後である。当時「象牙の塔」とも言えた教育学の世界に、教室の事実から氏は挑戦状をたたきつけた。

この「外連」の記述は、当時論議されていた「授業におけるゆさぶり」という考え方に通じるものだ。

斎藤喜博氏の「ゆさぶり」を徹底批判した宇佐美寛氏の論も驚くべき鋭さだった。これに対して、向山氏は「ゆさぶり」を「外連」の概念と対比してイメージしていたのである。異なる意見が存在し、それが意欲を喚起するという点では「ゆさぶり」は良い。しかし、それは「外連」であり、「介入」のできるレベルのものだ。

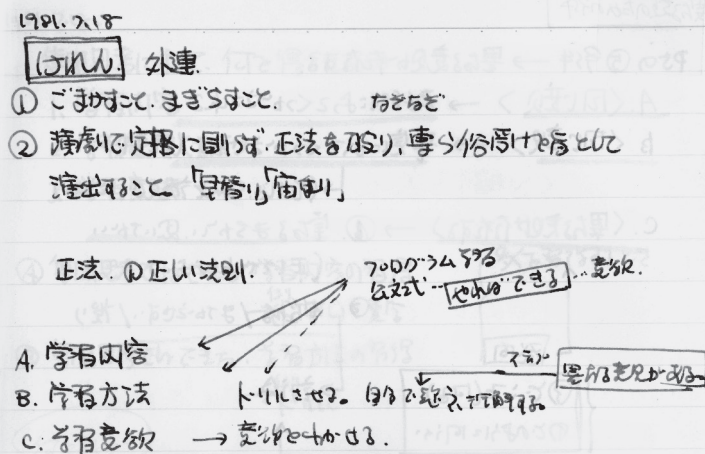
向山氏の「討論」に見られるような「児童が児童をゆさぶる」とう視点、子どもたち一人ひとりが「知的に追い詰められる」という場面の重要性を指摘しているのである。

また、本巻後半に収録されている「TOSS 授業技量検定」創出の記録も貴重である。上達論が全く存在しなかった「教育技術・方法」の世界に、明確な指標を提案した。現在、TOSS で学ぶ先生方がのべ五千人を超えて受検している検定制度である。

TOSS 授業技量検定はF表からA表までで展開されており、「オンライン授業技量検定」も創設される広がりを見せている。その原点がこの向山氏のノートだ。例えば「有段のための教科内容」という項目ひとつとっても、現在の私たちの、教室での授業改善への方向が明確に示されている。

書き写し、細部まで分析して学びたい資料である。

1. 向山洋一が着想した授業の根本思想 「授業読本 Part1」



FOR STUDY & BUSINESS

1981.7.17.

太 野

1981.7.17.

新年にもない女の先生が次のように言ったことがある。

「困っているんです」といいながら、他の先生は、なぜもたもたしているんでしょう。ということをつかかっていた。つまり、私は、国語授業がすぐれているといいた。

「お、今又読ませて、漢字の解をよせて、わかることは説明するんだ
という。

「それから、どうするんです」と再び聞くと「ああそうか」という顔をして、「それで、信じて」という。

「これで終りでいいか？」と、曲くりに聞くと「そう、終りで、あとはアタマ
ヤスアス。」という。

私は早々とあつた。

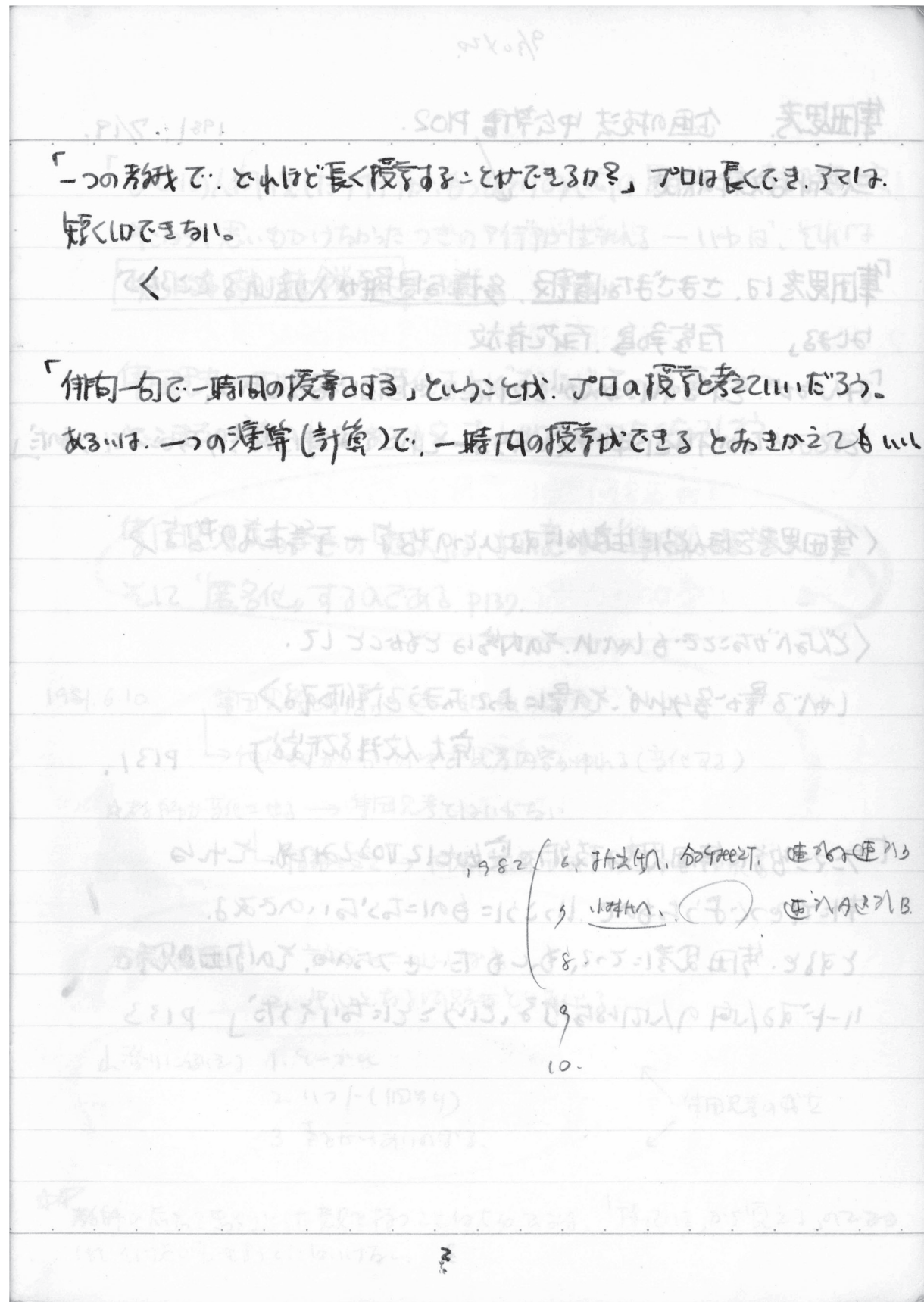
「いったい、これは何だ？」

「に中い。授きか？」

と思う。「授章の一つである」ということが言える。

「最低の援助-で済む」といふと少し正確になる。

問題の12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847.



優れた授業とは何か ～なぜ新卒教師は授業ができないのか～

小嶋悠紀

11～12 ページの向山氏のメモは「1981 年」である。

『斎藤喜博を追って』（昌平社）の発刊が 1979 年。そして、『跳び箱は誰でも跳ばせられる』（明治図書）の発刊が向山メモの翌 1982 年となる。

ここで語られているような新卒の授業は、当時であれば本当によく見られたものだったのだろう。

なぜ教育系大学を卒業したような優秀な新卒が、国語の授業をまともにできないのか。

これは、その後の向山著作を次々と生み出していく、ひとつの動機になったに違いない。

メモにも書かれているように「こうした授業を良いと思っているらしい」という言葉から、当時、授業のやり方や良い授業の方法や技術などは「秘匿」にされていたことがうかがえる。

新卒にとっては「比較対象」がない。

「授業の腕の良し悪しの基準がない」ことで、現状に満足してしまっているのだろう。

向山氏は、具体的に「ひとつの基準」をここで明示している。

「俳句一句で一時間の授業をする」ということが、プロの授業と考えていいだろう。

その後の教育技術の法則化運動につながる「授業の腕」「教師の授業力」を明確にする基準の必要性を常に考え、学校現場で実践してきたことが垣間見える貴重なメモである。